

# 「かごしま茶」未来創造プラン

平成31年3月  
鹿児島県

# 「かごしま茶」未来創造プラン

## < 目次 >

	頁
第1 プラン策定の趣旨と位置付け . . . . .	1
1 プラン策定の目的	
2 プランの位置付け	
第2 本県茶業の現状と課題 . . . . .	2
1 かごしま茶の生産構造	
2 かごしま茶の流通・消費	
第3 本県茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル） . . . . .	17
第4 本県茶業の目指す姿 . . . . .	18
1 目指す姿	
2 目標	
第5 「儲かる茶業経営」実現に向けた基本方針 . . . . .	20
取組1 生産者の経営安定	
取組2 加工及び流通の高度化	
取組3 品質・付加価値の向上促進	
取組4 消費の拡大	
取組5 輸出の促進	
取組6 かごしま茶の文化振興	
第6 推進体制 . . . . .	26
第7 地域計画（概要） . . . . .	27
1 地域農業の概況と茶業の位置付け	
2 茶業振興にかかる基本方針	
3 地域茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル）	
4 目標	
5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状及び課題	
6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針	

◆ 「かごしま茶」未来創造プランの概要について

## 第1 プラン策定の趣旨と位置付け

### 1 プラン策定の目的

本県の茶は、全国的に茶園面積が減少傾向にある中で、面積・生産量が維持され、全国第2位の産地となっています。全国の荒茶生産量に占める本県の割合は増加傾向にあり、茶産地としての本県に対する期待が高まっています。

また、大規模で効率的な生産が行われ、足腰の強い経営体が育成されるなど、本県農業の将来を担う重要な品目としても期待されています。

しかしながら、荒茶価格の低迷や担い手不足など、茶業経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、生産体制の強化や、ニーズに対応した茶づくり等による付加価値の向上やかごしま茶のさらなる需要拡大が急がれます。

こうした中、本県の茶業は、多くの強みや潜在力（ポテンシャル）を有していることから、生産者や関係機関・団体が一体となって、これらを生かした取組を進め、「儲かる茶業経営」を実現するための指針として、このプランを策定するものです。

### 2 プランの位置付け

このプランは、「かごしま食と農の県民条例に基づく基本方針」や「かごしま未来創造ビジョン」、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」、「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」を加味しつつ、本県茶業の10年後の目指す姿を描き、かごしま茶の未来を創造するための基本的な方向性を示すものです。

また、「お茶の振興に関する法律」（平成23年4月22日法律第21号）の基本方針に即し、鹿児島県における茶業及びお茶の文化の振興に関する計画として位置付け、10年後の2028年度を目標年度とします。

なお、茶業を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、必要に応じて検証・見直しを行うこととします。

## 第2 本県茶業の現状と課題

### 1 かがしま茶の生産構造

#### (1) 農業産出額における茶の位置付け

- 平成29年度の本県茶の産出額（生葉＋荒茶）は293億円で、耕種部門では第1位であり、本県農業の将来を担う重要な品目となっています。

#### 【作物別農業産出額の上位品目(平成29年度)】

単位：億円

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	産出額計
品目	肉用牛	豚	ブローラー	鶏卵	茶(生葉＋荒茶)	米	さつまいも	ばれいしょ	さとうきび	
産出額	1,258	832	645	286	293	221	163	120	107	5,000
構成比	25.2%	16.6%	12.9%	5.7%	5.9%	4.4%	3.3%	2.4%	2.1%	100%

資料：農林水産統計

- 全国の茶産出額に占める本県の割合は、平成29年度で約29%となっており、増加傾向にあります。

#### (2) 栽培面積及び荒茶生産量の推移

- 栽培面積・荒茶生産量ともに全国第2位の産地であり、平成30年産の荒茶生産量は過去最高の28,100トンとなり、全国の荒茶生産量の約3割を占め、その割合は増加傾向にあります。

#### 【栽培面積及び荒茶生産量の推移】

区分		S57	H4	H14	H19	H25	H29	H30
面積 (ha)	本県	7,510	7,560	8,300	8,530	8,660	8,430	8,410
	全国シェア	12.3%	13.3%	16.7%	17.7%	19.1%	19.9%	20.3%
	静岡県	22,700	22,800	20,600	19,900	18,300	17,100	16,500
	全国シェア	37.2%	40.2%	41.4%	41.3%	40.3%	40.3%	39.8%
全 国		61,000	56,700	49,700	48,200	45,400	42,400	41,500
荒茶 生産量 (t)	本県	11,000	14,900	18,400	24,100	25,600	26,600	28,100
	全国シェア	11.2%	16.2%	21.9%	25.6%	30.2%	32.4%	32.6%
	静岡県	49,900	45,200	36,900	39,900	32,200	30,800	33,400
	全国シェア	50.7%	49.1%	43.8%	42.4%	38.0%	37.6%	38.7%
全 国		98,500	92,100	84,200	94,100	84,800	82,000	86,300

資料：農林水産統計

### (3) 生産基盤（経営規模，機械化）の状況

- 平坦茶園率が高く，大型機械の導入による省力化，経営規模の拡大や法人化など，足腰の強い経営体が育成され，将来にわたって発展が期待できます。

#### 【茶の経営規模の推移】

区分	茶業経営体数(戸) ※1		栽培面積(ha) ※2		1戸あたり作付面積(ha/戸)	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
本 県	2,216	1,744	8,690	8,610	3.9	4.9
静岡県	13,933	9,617	19,000	17,800	1.4	1.9

資料：※1 農林業センサス（販売目的で栽培した規模別経営体数）

※2 農林水産統計

#### 【平坦茶園率と乗用型摘採機整備状況】

	平坦茶園率 (傾斜度0～5度 の茶園割合) ※1	乗用型摘採機 ※2			10a当たり労働時間 ※3	
		導入面積	導入台数	導入面積率	ほ場労働時間	家族労働時間
本 県	99.6 %	8,024 ha	1,400 台	95.2 %	78.2	63.0
静岡県	36.5 %	10,194 ha	3,398 台	59.6 %	122.0	108.4
全 国	52.3 %	24,067 ha	6,800 台	56.8 %	—	—

資料：平成30年版茶関係資料（平成30年6月 公益社団法人日本茶業中央会）

（※1：H20年度，※2：H29年度，※3：H15年度）

#### 【荒茶工場の法人化の推移】

	H19	H22	H27	H28	H29
法人工場数	187	188	187	187	187
全工場数	657	602	525	506	491
法人化率(%)	28.5	31.2	35.6	37.0	38.1

資料：農産園芸課調べ（市町報告）

- 荒茶工場の合併・近代化・大型化が進み，工場数が減少しており，特に，ここ10年間の減少率が大きくなっています。

- 農家1戸当たりの茶園面積，荒茶工場1工場当たりの荒茶生産量は拡大しており，生産能力の限界に達しつつありますが，設備投資への不安感が大きくなっています。
- 更新時期を迎える荒茶工場も多く，今後さらなる再編
  - 集約が見込まれることから，競争力ある産地づくりに向け，地域ぐるみでの中長期的産地戦略づくりが急がれます。

### 【荒茶工場数の推移】

年度	H12	H17	H22	H27	H28	H29	H29/H19
工場数	698	665	602	525	506	491	74.7%
年あたり減少数		H17-H12 減少数 ▲6.6/年	H22-H17 減少数 ▲12.6/年	H27-H22 減少数 ▲15.4/年	H28-H27 減少数 ▲19	H29-H28 減少数 ▲15	

資料：農産園芸課調べ（市町報告）

- ロボット茶摘採機の開発・実証が進むなど，全国に先駆け，省力化に向けたIOTやAI技術活用の研究・開発が進んでおり，その実用化が期待されています。
- 霜害や降灰等の自然災害に対応するための防災施設整備が進み，生産者の経営安定につながっています。

### (4) 労働力の確保状況

- 茶は初期投資が大きいことから，新規就農者のほとんどが後継者で占められていますが，近年では，農業法人への就職による就農も進んでいます。

### 【茶の新規就農者の状況】

年度	H15-19計	H20-24計	H25-29計	H15-29計
新規就農者(人)	147	110	66	323
うち40歳未満	128	102	62	292
上記割合(%)	87.1	92.7	93.9	90.4

資料：経営技術課調べ

- 農家の高齢化や担い手不足等から、労働力確保が大きな課題となっており、特に機械化が難しい被覆作業への対応が困難となっています。

### 【年齢別茶栽培農家戸数】

区分		29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
H21	農家戸数(戸)	26	206	446	992	2,437	4,107
	構成比(%)	0.6	5.0	10.9	24.2	59.3	100.0
H29	農家戸数(戸)	13	134	249	577	962	1,935
	構成比(%)	0.7	6.9	12.9	29.8	49.7	100.0

資料：農産園芸課調べ（市町報告）

- 多様な担い手を確保するため、雇用条件や労働環境の整備が必要です。

### (5) 茶期別荒茶生産量及び荒茶価格

- 本県は、日本一早い「走り新茶」の産地であり、4月上旬からの一番茶に始まり、10月末までの秋冬番茶までと生産期間が長いという特徴があります。

### 【茶期別荒茶生産量(平成29年産)】

区分	茶期	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶・ 秋冬番茶	計
本 県	荒茶生産量(t)	7,880	6,510	5,080	7,134	26,600
	全国シェア(%)	26.1	31.1	72.0	32.4	33.2
静岡県	荒茶生産量(t)	11,000	7,956	985	10,859	30,800
	全国シェア(%)	36.4	38.0	14.0	49.3	38.4
全 国	荒茶生産量(t)	30,192	20,963	7,053	22,022	80,230

資料：平成30年版茶関係資料（平成30年6月 公益社団法人日本茶業中央会）

- リーフ茶の消費は減少傾向にあり、荒茶価格が低迷しているものの、ペットボトル入り緑茶飲料の消費増加に伴い、ドリンク原料茶の需要が拡大しており、二番茶以降の価格安定につながっています。

## 【県茶市場における茶期別荒茶価格の推移】

単位：円/kg

	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	秋冬番茶	計
H19	2,339	1,034	571	580	345	1,250
H24	2,059	898	596	552	350	1,144
H29	1,892	895	660	535	342	1,097
H30	1,578	777	420	420	378	933
H30/H19	67.5%	75.1%	73.6%	72.4%	109.6%	74.6%

資料：鹿児島県茶市場の取引実績（平均単価は税抜価格）

※一番～四番茶：本茶(出物含む)と番茶の合計。秋冬番茶：番茶(出物含む)。

## (6) 栽培品種の構成

- 全国で栽培される茶の約7割が「やぶきた」ですが、本県では約1/3程度にとどまり、その他多様な品種が栽培されており、消費者ニーズに対応した荒茶の供給、仕上茶の生産が可能となっています。
- 早生・中生・晩生等の品種構成により、収穫時期の分散が図られ、効率的な荒茶工場の操業がなされています。

## 【栽培品種の構成】

区分		やぶきた (中)	ゆたかみどり (早)	さえみどり (早)	あさつゆ (中)	おくみどり (晩)	その他	合計
本 県 (H29)	面積(ha)	2,873	2,309	1,021	463	389	1,375	8,430
	構成比(%)	34.1%	27.4%	12.1%	5.5%	4.6%	16.3%	100.0%
静岡県 (H29)	面積(ha)	15,734	6	82	16	92	1,170	17,100
	構成比(%)	92.0%	0.0%	0.5%	0.1%	0.5%	6.8%	100.0%

資料：平成30年版茶関係資料（平成30年6月 公益社団法人日本茶業中央会）

※(早)＝早生種，(中)＝中生種，(晩)＝晩生種

- 需要に対応した品種や、病虫害抵抗性の強い品種等、優良品種への計画的な改植により、収益向上及び労働軽減を図る必要があります。
- 現在、樹齢31年以上の茶園が約4割を占めており、品質・収量への影響が懸念されることから、計画的な改植が必要です。

## (7) 多種多様な茶づくり等への取組

- 近年の抹茶の用途拡大等を背景に、国内外で抹茶の需要が高まっており、本県でも抹茶の原料となるてん茶の生産が拡大しています。
- 県内茶商による抹茶加工施設整備の動きがあるほか、県茶市場に、てん茶が初めて上場されるなど、てん茶の流通・抹茶加工の体制づくりが進みつつあります。

### 【てん茶工場整備及び生産量の推移】

	H26	H27	H28	H29	H30
当年度整備工場数	1	2	1	6	1
工場数(累計) (稼働工場数)	3 (2)	5 (3)	6 (5)	12 (6)	13 (12)
市町	南九州市 1 霧島市 1 志布志市 1	南九州市 2 霧島市 1 志布志市 2	南九州市 2 霧島市 1 志布志市 3	南九州市 5 霧島市 3 志布志市 4	南九州市 5 霧島市 4 志布志市 4
生産量(t)	50	50	275	489	754

資料：農産園芸課調べ（生産量：市町報告）

- リーフ茶の消費が減少傾向にあることから、需要に対応した茶（てん茶やドリンク原料茶、ティーバッグ原料茶等）づくりが県内各地で進んでいます。
- 生産者による多様な茶種（玉露、かぶせ茶、紅茶、半発酵茶など）への研究活動が進んでいます。
- メチル化カテキンを多く含む「べにふうき」や、アントシアニンを多く含む「サンルージュ」など、機能性に着目した茶の生産も進んでいます。
- 消費者ニーズに対応した多様な茶づくりや高品質な茶づくりを進めるため、栽培技術の確立・普及や販路拡大を図る必要があります。

## (8) 有機栽培への取組

- 本県における茶の有機栽培面積は、年々増加しており、平成29年度で 532ha（うち有機JAS認証415ha）と、県内茶園面積の約6%を占めており、全国トップクラスです。

### 【有機栽培茶の栽培面積の推移】

単位：ha

項目	H23	H25	H27	H29	H29/H23
茶栽培面積 (①)	8,670	8,660	8,610	8,430	97.2%
有機栽培面積 (②)	221	242	381	532	240.7%
割合 (②/①)	2.5%	2.8%	4.4%	6.2%	-
うち有機JAS面積 (③)	190	193	253	415	218.4%
割合 (③/②)	86.0%	79.8%	66.4%	78.0%	-

資料：茶栽培面積（農林水産統計）  
有機栽培面積（食の安全推進課まとめ）

### 【県産茶の全国における地位と有機栽培茶園の状況】

区分	本県	全国	全国に占める割合	全国における地位	参考：静岡県
荒茶生産量 (t)	26,600	82,000	32.4%	2位	30,800
茶栽培面積 (ha)	8,430	42,400	19.9%	2位	17,100
うち有機栽培 (ha)	532	-	-	-	200
うち有機JAS (ha)	415	-	-	-	-
(※) 有機JAS格付数量の県別の割合	44%	100%	-	1位	24%

資料：農林水産統計，県農政部調べ

(注) 荒茶生産量・茶栽培面積：H29年産

有機栽培面積・うち有機JAS面積：H29年時点

(注) 静岡県有機栽培面積：H28年時点（「静岡県茶業の現状」より）

(※) 有機JAS格付数量の県別割合（H26年）：

格付数量の約6割の事例調査結果（農水省「茶をめぐる情勢」より）

- 有機栽培茶は、世界各国に輸出対応可能であり、健康志向等を背景に、海外からの需要が高まっています。

- ・ 米国・EUなど、日本の有機JAS制度との同等性を有する国に対しては、同等性の仕組みを利用した輸出が増加傾向にあります。

### 【茶の輸出量に占める有機JASの割合(H29年)】

	輸出量(t) A	有機栽培※(t) B	割合(%) B/A
米国	1,407	165	11.7
EU	589	260	44.1

(※) 有機認証制度の同等性等の仕組みを利用して輸出したもの  
(農水省「茶をめぐる情勢」より)

- ・ 安全・安心な農産物へのニーズや輸出向けの需要拡大により、県茶市場においても、有機栽培茶は約1割ほど高値で取引されています。

### 【県茶市場における有機JAS認証茶の取引状況】

単位：kg, 円/kg

区分	数量単価	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30単価比較 有機茶/一般茶
有機栽培	数量	50,981	44,287	39,667	44,187	81,286	126,042	143,871	109.7%
	平均単価	1,008	909	1,230	1,233	1,186	1,116	1,025	
一般茶	平均単価	1,144	924	950	912	1,044	1,097	934	

(注) 数量、単価は、「本茶、番茶、出物」の合計実績

- ・ 国内外からの有機栽培茶の需要に対応するため、「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」に基づき、茶園の団地化、生産技術の高度化等に取り組み、さらなる生産拡大を進める必要があります。
- ・ 特に、海外で需要が高い有機抹茶を、本県から直接輸出できる生産及び流通体制の整備が必要です。

## (9) 安全・安心な茶づくりへの取組

- かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）をはじめとした第三者認証を取得する荒茶工場が増えており、平成30年3月末で県内茶工場の64%に当たる305工場が認証を取得しています。

### 【第三者認証取得状況】

制度の名称	取得工場数 H30.3月末時点		H27.3月末	H30.3月末
K-GAP	206工場	県内工場	551	476
J-GAP (ASIAGAP含む)	112工場	第三者認証取得工場	244	305
G-GAP	4工場	取得割合	44.3%	64.1%
ISO9001	63工場			

資料：農産園芸課調べ（市町報告）

- 大手飲料メーカーや量販店からの要請等を受け、第三者認証取得を取引条件とする例もあり、荒茶工場の認証取得をさらに進める必要があります。
- 農薬の適正使用に加え、周辺ほ場からのドリフト防止、荒茶工場での異物混入防止対策等、さらなるクリーンな茶づくり徹底の取組が必要です。

## (10) 全国茶品評会における受賞状況

- 全国茶品評会「普通煎茶10kgの部」において、優れた市町村に授与される産地賞の15年連続受賞や、農林水産大臣賞などの特別賞を多数受賞するなど、品質的にも高い評価を得ています。
- かごしま茶のさらなる品質向上とブランド確立を図るため、全国茶品評会において、複数部門での上位入賞に向けた取組を強化する必要があります。

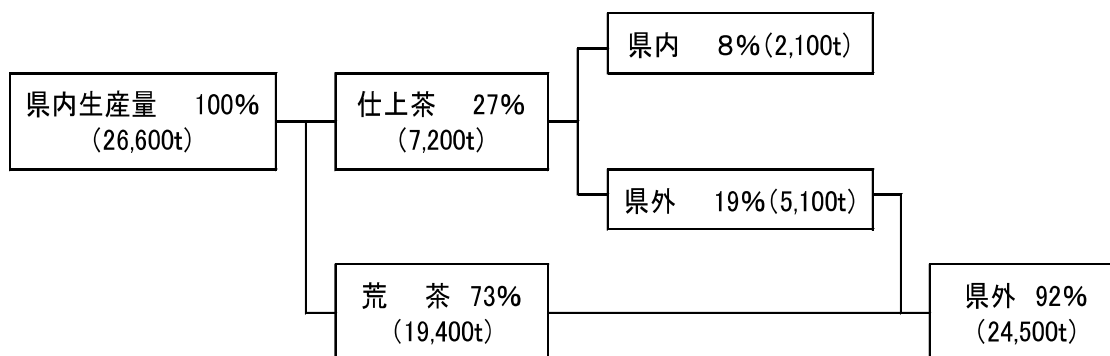
## 2 かがしま茶の流通・消費

### (1) かがしま茶の流通状況

- 本県産荒茶の流通経路は、主に、県茶市場→県内茶商（産地問屋）→県外茶商（消費地問屋）→小売店→消費者となっています。
- 近年、茶商等との相対取引や小売店との直接取引、インターネットを活用した直販など、様々な流通形態への取組が進んでいます。
- ドリンク需要を背景に、県内での仕上茶率は低下しており、生産量の約7割が荒茶のまま県外に出荷され、県内での仕上茶率は、約3割にとどまっていると推察されます。

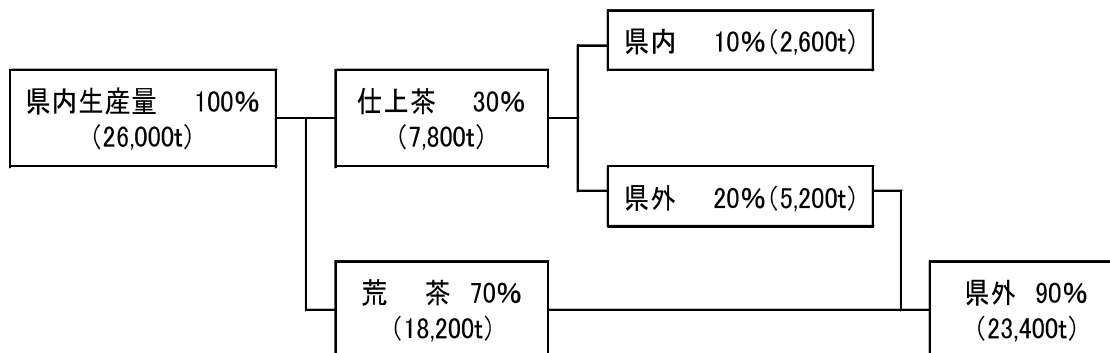
### 【かがしま茶の流通状況】

（推 計）平成29年産かがしま茶の流通状況(平成29年度調査)



### 【参考】

（推 計）平成20年産かがしま茶の流通状況(平成21年度調査)



## (2) 緑茶の消費動向とかごしま茶の消費拡大に向けた取組

- リーフ茶の消費が減少傾向にある中、平成28年の緑茶飲料の消費量は過去最高になるなど、簡便な形態での飲用にシフトしています。

### 【1世帯当たりの緑茶・茶飲料の年間支出金額】

(単位:円)

	H14	H19	H21	H27	H28	H29
緑茶 (リーフ茶)	6,095	5,378	4,809	4,083	4,168	4,103
茶飲料	4,464	5,749	5,700	6,146	6,632	6,631
計	10,559	11,127	10,509	10,229	10,800	10,734

資料：総務省家計調査（全国二人以上の世帯）

- 鹿児島市における、平成27年から29年の一世帯当たりの平均緑茶（リーフ茶）購入数量は、1,554グラム（全国1位）となっています。

### 【緑茶（リーフ茶）の購入金額・数量ランキング（H27～29年度）】

購入金額(円)		購入量(g)	
全国平均	4,118	全国平均	847
1 静岡市	9,491	1 鹿児島市	1,554
2 鹿児島市	7,489	2 静岡市	1,462
3 浜松市	6,369	3 浜松市	1,292
4 佐賀市	6,195	4 奈良市	1,244
5 長崎市	6,003	5 大津市	1,157
6 横浜市	5,834	6 京都市	1,122
7 さいたま市	5,368	7 長崎市	1,106
8 川崎市	5,218	8 佐賀市	1,093

参考：鹿児島市購入数量順位の推移

平均年	順位	購入量(g)
H21-23	21位	1,020
H22-24	10位	1,111
H23-25	12位	1,103
H24-26	22位	952
H25-27	17位	1,002
H26-28	3位	1,375

資料：総務省家計調査（品目別：都道府県庁在り市及び政令指定都市）

- リーフ茶の消費拡大に向け、県内の小学生を対象とした「おいしいお茶の入れ方教室」や「かごしま百円茶屋」等の消費拡大イベントの定期的開催、大手量販店が実施する「鹿児島フェア」など、様々な機会を捉え、PR活動に取り組んでいます。

### 【「おいしいお茶の入れ方教室」の実施状況】

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
実施校数	148	171	188	180	195	190
児童数	5,001	6,387	6,663	6,957	7,984	7,971

※H30の数値はH31年2月末時点

- ・ 県外の販売拠点である「かごしま茶販売協力店」指定店舗の拡大と併せて、さらなる連携強化により、「かごしま茶」の販路開拓や需要拡大を進める必要があります。

### 【「かごしま茶販売協力店」指定店舗数】

	北海道 ・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州 ・沖縄	合計
H27.3月末	14	102	17	33	9	1	41	217
H28.3月末	15	101	17	34	9	1	44	221
H29.3月末	14	134	12	31	9	1	48	249
H30.3月末	57	176	14	35	9	1	48	340
H31.1月現在	57	175	14	35	9	1	49	340

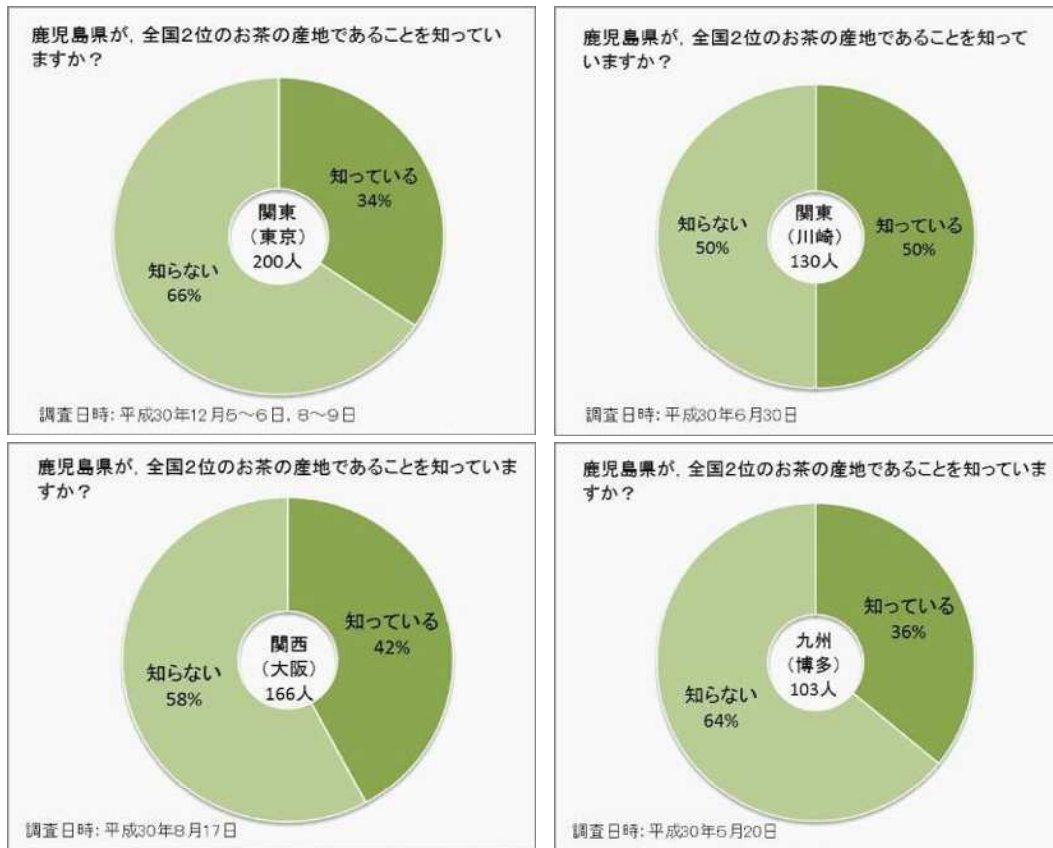
※31都道府県 137社340店舗

- ・ これらの取組においては、緑茶に含まれる機能性、かごしま茶の魅力や特長等、消費・購入の動機付けにつながる仕掛けが必要です。
- ・ リーフ茶離れが進む若年層に向けては、リーフ茶の普及に加え、新たな視点でのアプローチにより、緑茶を生活に取り入れてもらう仕掛けや教育現場との連携が必要です。

### (3) かがしま茶の認知度

- 消費者の「かがしま茶」に対する認知度はまだまだ低い状況です。

#### 【消費者へのアンケート結果(H30年度調査)】



- かがしま茶の認知度向上に向け、「かがしま標章茶」制度による統一シンボルマークの普及や「かがしまブランド」産品指定の拡大など銘柄確立に取り組んでいます。

#### 【「かがしまブランド」, 「かがしま標章茶」指定状況】

区分	かがしまブランド指定状況 (H30.5月末)①		標章茶指定状況 (H30.9月末)②		標章茶におけるかがしまブランドの割合(①/②)	
	銘柄数	茶販売業者数	銘柄数	茶販売業者数	銘柄数	茶販売業者数
県茶商業協同組合	128	23	184	32	70%	72%
JA経済連	33	7	34	8	97%	88%
(一社)県生産協会他	133	55	304	127	44%	43%
合計	294	85	522	167	56%	51%

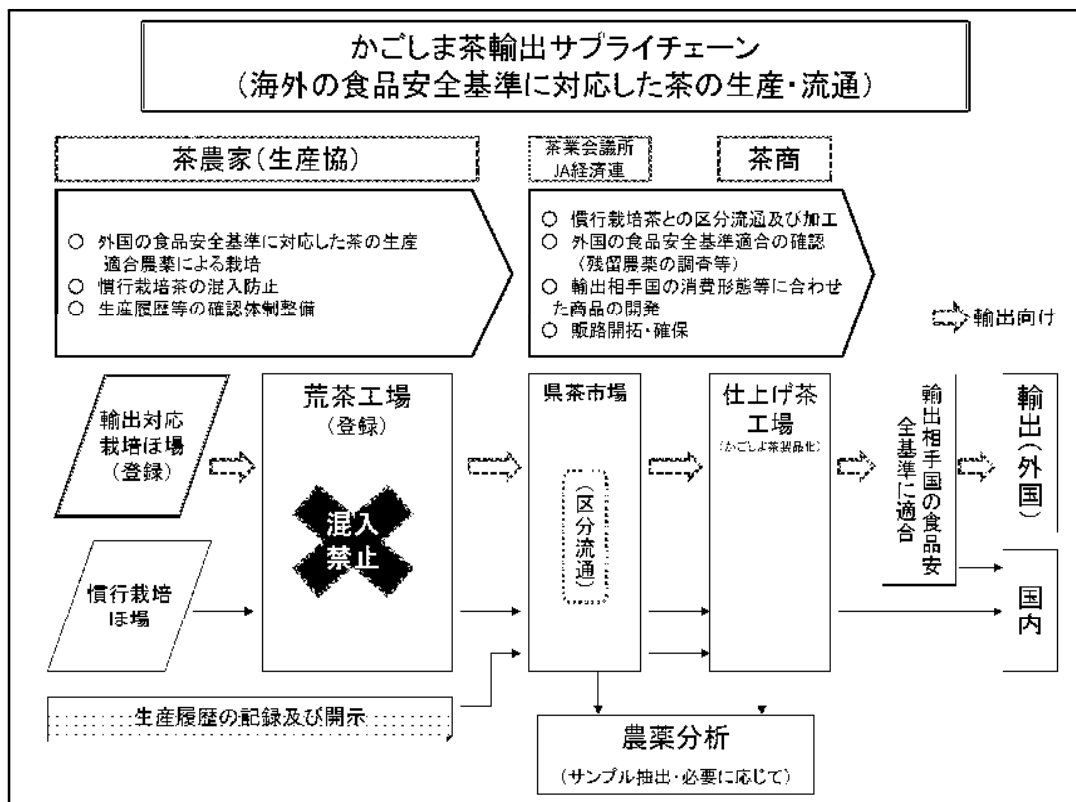
※標章茶販売業者数は、延べ数(仕上茶工場数)で計上

- ・ かがしま茶のさらなるブランド化を図るため、全国茶品評会における多部門での産地賞獲得と、それらの実績等を積極的に情報発信し、かがしま茶の品質の高さを前面に出したPR活動により、知名度向上を図る必要があります。

#### (4) かがしま茶の輸出への取組

- ・ 平成27年1月に、生産者・茶商・経済連・県からなる「かがしま茶輸出対策実施本部」を設置し、輸出に対応した流通システムづくりや、かがしま茶の海外への情報発信・販路開拓に取り組んでいます。
- ・ 生産・加工から流通・販売まで一貫した流通システム「かがしま茶輸出サプライチェーン」を構築し、米国・EU・台湾向けの輸出に対応しています。

#### 【「かがしま茶サプライチェーン」のフロー図】



- ・ かがしま茶の輸出は、米国・EUを中心に増加傾向にあるものの、全国の緑茶輸出額に占める割合はまだ低い状況にあります。

### 【全国の輸出推移と本県シェア】

		H26	H27	H28	H29
輸出量(t)	本県	86	93	133	111
	全国シェア	2.4%	2.3%	3.2%	2.4%
	全国	3,516	4,127	4,108	4,642
輸出額(百万円)	本県	177	200	221	274
	全国シェア	2.3%	2.0%	1.9%	1.9%
	全国	7,799	10,106	11,551	14,357

資料：本県～農産園芸課まとめ（4月～翌3月）  
 全国～財務省通関統計（1月～12月）

### 【国別の輸出推移】

輸出先	H26		H27		H28		H29	
	輸出量(トン)	輸出額(千円)	輸出量(トン)	輸出額(千円)	輸出量(トン)	輸出額(千円)	輸出量(トン)	輸出額(千円)
米国	58.7	82,972	47.0	102,343	28.6	64,138	33.1	85,312
ドイツ	17.6	69,114	16.6	40,639	19.9	92,155	25.3	100,332
台湾	2.7	4,500	18.6	22,528	75.6	45,732	37.1	25,944
その他	6.7	20,499	10.7	34,547	8.6	19,214	15.9	62,383
計	85.7	177,085	92.9	200,058	132.7	221,239	111.4	273,971

資料：農産園芸課まとめ（4月～翌3月）

- ・ 平成30年3月に策定した「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」、「かがしま有機抹茶輸出促進基本構想」に基づき、かがしま茶の輸出拡大に向けた戦略的取組の強化が必要です。

### 第3 本県茶業の強みや潜在力（ポテンシャル）

- 1 栽培面積，荒茶生産量ともに全国第2位
- 2 茶園平坦率，乗用型摘採機利用率日本一
- 3 経営の大規模化・法人化が進展
- 4 全国に先駆けたIOTやAI技術の導入
- 5 バリエティに富む品種構成
- 6 需要に対応した多様な茶づくりが拡大
- 7 全国トップクラスの有機栽培茶面積
- 8 第三者認証取得工場が増加
- 9 全国茶品評会「普通煎茶10kgの部」で15年連続産地賞受賞
- 10 欧米を中心に，輸出が拡大

## 第4 本県茶業の目指す姿

### 1 目指す姿

生産者や関係機関・団体が一体となり、「本県茶業の強みや潜在力」を生かした取組が進み、「儲かる茶業経営」が実現されています。

- 夢を持って茶業経営に参画できる環境づくりが進み、多様な担い手が確保されています。
- IOTやAI技術等の革新的技術が実用化され、省力化や効率化が進んでいます。
- 「かごしま茶」の認知度が向上し、国内外でのブランド確立が進んでいます。

## 2 目標

10年後の2028年度を目標年度とし、その目標を定めます。

	項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
1	本県荒茶の全国シェア	32%	35%	40%
2	1戸当たりの栽培面積	4.4ha	5.0ha	5.5ha
3	荒茶工場の法人化率	38%	45%	50%
4	有機JAS認証茶園面積	415ha	660ha	900ha
5	荒茶工場の 第三者認証等取得割合	64%	80%	95%
6	全国茶品評会における産地賞受賞	1部門	2部門	2部門
7	全国茶品評会における入賞茶種	2部門	5部門	8部門
8	仕上茶銘柄数 (「かごしま標章茶」の銘柄数)	518銘柄	560銘柄	600銘柄
9	「かごしま茶販売協力店」の 登録店舗数	340店舗	370店舗	400店舗
10	茶の輸出額 ※	2.7億円	10億円	20億円
	有機抹茶の輸出額 ※	-	8億円	16億円
	煎茶の輸出額 ※	-	2億円	4億円
11	お茶とのふれあい教室 (小学校高学年)受講率	26%	31%	35%

※ 輸出額にかかる目標は、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」及び「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」と合わせ、目標を2025年度、中間年を2021年度とする。

## 第5 「儲かる茶業経営」実現に向けた基本方針

### 【 取組1：生産者の経営安定 】

生産者の経営安定を図るため、効率的生産体制の整備を進めるとともに、IoTやAI技術等革新的技術の実用化による省力化や担い手確保対策等を進めます。

- 競争力ある産地づくりに向け、茶業経営をめぐる情勢を鑑み、各産地における中長期的戦略の策定を推進し、地域加工拠点など産地が一体となった効率的生産体制の整備を進めます。
- 高収益な茶種への転換や他品目との複合経営による農閑期の所得確保等、経営の合理化を支援し、茶業をめぐる情勢に対応できる足腰の強い経営体を育成します。
- 茶業経営の省力化を図るため、IoTやAI技術等革新的技術の研究・開発及び実用化に向けた実証活動等の取組を進めます。
- 多様な担い手の就農を進めるため、茶業経営の法人化等による雇用条件や労働環境の整備を進めます。
- 産地の重要な課題となっている労働力の安定確保に向け、県農業労働力支援センター等との連携や、産地における話し合い活動等を支援し、労力補完体制づくりなどを進めます。
- 収益向上や労力軽減等を図るため、需要に対応した品種や、病虫害抵抗性の強い品種等、優良品種への計画的な改植を進めます。
- 農家所得の安定確保に向け、火山活動に伴う降灰の影響を軽減するための対策等を計画的に推進するとともに、災害・事故等に備えた収入保険制度への加入を進めます。

**【 取組 2 : 加工及び流通の高度化 】**

加工及び流通の高度化を図るため、農家経営の多角化や販売チャネルの拡大、県内における仕上茶加工を推進します。

- 農家所得の向上を図るため、生産者による仕上茶加工、6次産業化の取組による商品開発等、経営の多角化を推進します。
- 流通の多様化に対応した販売チャネルの拡大を推進します。
- 県内茶商による抹茶加工施設などの仕上加工施設整備を支援し、県内における仕上茶加工を推進します。

### 【 取組 3 : 品質・付加価値の向上促進 】

品質・付加価値の向上促進を図るため、栽培・加工技術の研究・普及を推進するとともに、多種多様な茶づくり、安全・安心へのニーズに対応するための取組等を進めます。

- 品質向上及び多様なニーズに対応するため、品種、茶種、加工方法など、栽培・加工技術等の研究を推進するとともに、成果の普及を図ります。
- 消費者のライフスタイルに対応するため、ドリンク原料茶やティーバッグ原料茶、玉露、抹茶、紅茶、半発酵茶等、多種多様な茶づくりを進めます。
- 消費者の安全・安心へのニーズに対応するため、各種GAPや有機JAS等第三者認証の取得推進や、周辺ほ場からのドリフト防止、荒茶工場における異物混入防止対策等、クリーンな茶づくりをさらに強化します。
- かごしま茶の品質向上に向け、全国茶品評会における複数部門での上位入賞に取り組みます。

#### 【 取組４：消費の拡大 】

かごしま茶の消費拡大を図るため、継続したPR活動や若年層への消費喚起に取り組むとともに、かごしま茶のブランド力向上への取組を強化します。

- かごしま茶の認知度向上を図るため、県内外での「かごしま百円茶屋」を継続して実施するとともに、各種イベント、物産展等におけるPR活動をさらに強化します。
- 加えて、県外における販路開拓に向けては、「かごしま茶販売協力店」と連携を強化し、消費者に対するさらなるPR活動に努めます。
- 抗酸化作用があるカテキンやビタミンC、リラックス効果があると言われるテアニンなど、茶に含まれる機能性を前面に出したPR活動や教育現場との連携を強化するとともに、産官学連携による研究活動や情報発信、機能性を生かした商品開発等に取り組めます。
- かごしま茶のファンづくりに向け、かごしま茶の魅力や特長を前面に出したPR活動や、空港・駅など鹿児島県の玄関口における観光客をターゲットとしたPR活動の充実・強化を図ります。
- リーフ茶離れが進む若年層への消費喚起を図るため、飲食店等と連携した商品開発や飲み方提案、SNSを活用した情報発信など、新たな視点でのアプローチや、教育現場と連携した取組を進めます。
- かごしま茶のブランド力向上を図るため、全国茶品評会における複数部門での上位入賞に取り組み、それらの実績の積極的な情報発信に努めます。

#### 【 取組 5 : 輸出の促進 】

かごしま茶の輸出促進を図るため、輸出相手国に応じた戦略的取組を進めるとともに、需要に対応した茶づくり、海外における販路開拓や国際規格の認証取得を促進します。

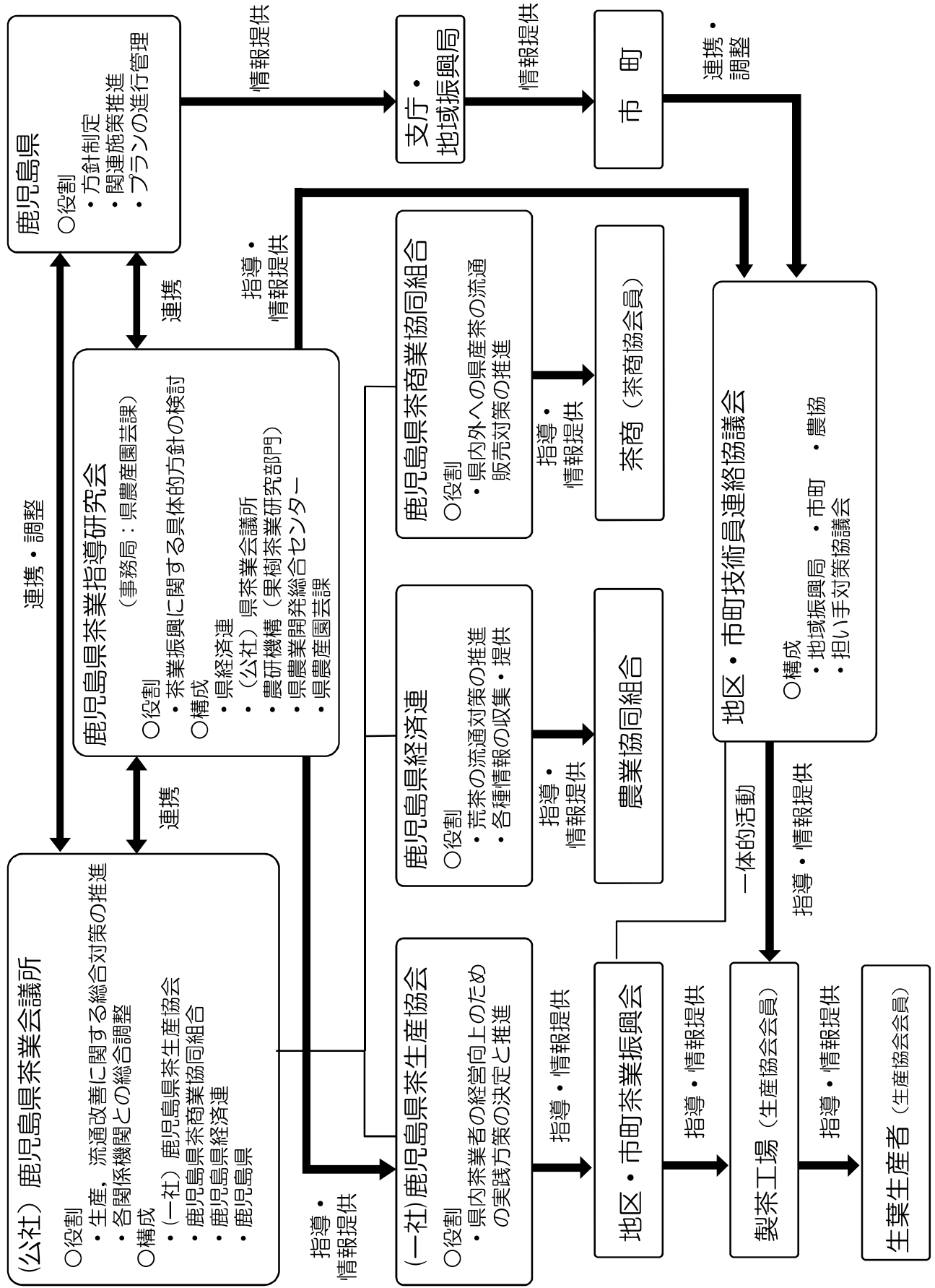
- かごしま茶のさらなる輸出拡大に向け、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」に基き、輸出相手国に応じた戦略的取組を進めます。
- 海外で需要が高い有機栽培茶、特に有機抹茶の生産拡大に向けては、「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」に基づき、有機栽培茶の生産拡大、てん茶の品質向上、抹茶加工施設の整備推進等の取組を強化します。
- かごしま茶の海外への情報発信や販路開拓を図るため、「かごしま茶輸出対策実施本部」を核に、現地パートナーの掘り起こし、商談会への出展、海外バイヤー招へい、PRツールの多言語化、国際品評会への出展・入賞対策等をさらに強化します。
- 海外からの需要に対応するため、「かごしま茶輸出サプライチェーン」を核に、相手国の食品安全基準に対応した茶づくりや流通システムの機能強化を図ります。
- 海外からのニーズに対応するため、国際的な認証制度であるGLOBALG. A. P. やASIAGAP等の取得や米国・EUなど、海外において同等性が認められている有機JAS認証の取得を進めます。
- 相手国の食品安全基準に対応するため、仕上茶工場におけるISO22000やFSSC22000等、品質安全マネジメントにかかる国際規格の取得を促進します。

**【 取組 6 : かごしま茶の文化振興 】**

かごしま茶の文化振興を図るため、お茶を身近に感じ、お茶に親しむ文化を定着させるための取組を進めます。

- かごしま茶を身近に感じ、茶に親しむ文化を定着させるため、手摘み体験やお茶の入れ方教室など児童生徒がかごしま茶と触れ合う機会を提供します。
- 県内の茶にまつわる歴史や文化を掘り起こし、茶園や農家の暮らしなどとともに、教育や観光の資源として活用する取組を進めます。
- インバウンドの観光客などをターゲットに、茶の歴史や文化、茶園の景観等を積極的に情報発信し、かごしま茶のファンづくりに取り組みます。

# 第6 推進体制



## 第7 地域計画（概要）

# 鹿児島・日置地域計画（概要）

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

桜島小みかんなど、特徴的な作物や、軟弱野菜、いちごなどを中心とした都市近郊型の農業が展開されている。

茶業は、中間から遅場産地であることから、一定の品質と収量による所得確保を産地戦略としている。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 地域の特色を生かした茶の消費拡大活動と銘柄確立の推進
- (2) 計画的な生産基盤の整備等、近代的な荒茶生産体制の確立
- (3) 国内外需要に対応できる多様な販売体制の確立
- (4) 消費者に信頼される茶づくりの推進
- (5) 茶業青年等担い手及び生産者組織等の支援による地域茶業の活性化
- (6) 地域の歴史・文化を生かした茶業振興

## 3 地域茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル）

- (1) 茶の購入量日本一の鹿児島市が地域内に所在 ＝「すぐに行ける茶産地」
- (2) 薩摩焼の里「美山」を有し、本県唯一の茶手もみ保存会、釜炒り製茶工場が存続
- (3) 早場～遅場の茶園で栽培する多種多様な品種構成と低コストで良質な茶づくり
- (4) 家族経営が主体であるが、一戸当たりの経営面積が大きく、大規模法人も存在

## 4 目標

項目	2017年度 （現況）	2023年度 （中間年）	2028年度 （目標）
荒茶工場の第三者認証等取得割合（％）	74	90	96
有機JAS認証茶園面積（ha）	13	20	26
荒茶工場の法人化率（％）	38	42	45

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

- (1) 現状
  - ① 家族経営が多く、規模拡大に伴う労働負担が増加
  - ② 継続したPR活動により、茶産地としての認知度が向上
  - ③ 輸出・有機栽培の推進に向けた研究会の発足
  - ④ 30代～40代の地域茶業の担い手が順調に育成
- (2) 課題
  - ① 優良品種への改植及び老朽化設備等にかかる対応
  - ② 個々の農家による生産コスト削減は限界状態にあり、二番茶以降の加工の集約化が必要
  - ③ 相手国のニーズや食品安全基準に対応した生産体系の確立が喫緊の課題
  - ④ 地域茶業の維持・拡大に向け、認定農業者の経営改善等、人材の確保・育成が急務

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

- (1) 地域の特色を生かした消費拡大活動と銘柄確立の推進
  - ① 「茶購入量日本一の街 鹿児島市」の宣伝周知
  - ② 「すぐ行ける茶産地で気軽にお茶体験」などの実施
- (2) 生産基盤の計画的な整備等による近代的な荒茶生産体制の確立
  - ① AI技術等を活用した効率的な生産管理施設導入を推進
  - ② 工場の在り方と運営体制の検討及び再編整備
- (3) 国内外需要に対応できる多様な販売体制の確立
  - ① 有機栽培、てん茶生産の推進及び体系の確立
  - ② 地域の受け皿となる大規模煎茶、てん茶等加工施設整備を推進
- (4) 消費者に信頼される茶づくりの推進
  - ① 買い手に必要とされる荒茶を生産できる産地づくり
  - ② IPMを活用した各種防除技術の導入
- (5) 茶業青年等担い手及び生産者組織の支援による地域茶業の活性化
  - ① 計画的な法人化への取組・支援
  - ② 目的・目標を持った品評会活動を推進
- (6) 地域の歴史・文化を生かした茶業振興
  - ① 薩摩焼の里「美山」と日置茶を伝承
  - ② 手もみ茶、釜炒茶、はんず茶など伝統茶を保存・継承

# 南薩地域計画（概要）

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

温暖な気候を利用して広大な畑地で茶，さつまいもなど大規模な農業経営が営まれている。茶は耕地面積の約24%，農業産出額の約16%を占める重要な基幹作物であり，多様な茶種の生産が行われている。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 立地条件を活かし，さらなる機械化の推進
- (2) I o TやA I 技術を活用した経営体質の強化による担い手の確保・育成
- (3) 栽培加工技術の高位平準化に向けた取組強化
- (4) 安全・安心でクリーンなかごしま茶づくりの推進

## 3 地域茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル）

- (1) 広大な畑地を擁し，茶の栽培面積・荒茶生産量ともに県内の約5割を占める主要産地
- (2) 生産加工施設の整備や機械化作業体系が確立され，早場産地として長期間にわたり茶を供給することが可能
- (3) 全国茶品評会に積極的に出品し，産地賞や大臣賞を受賞
- (4) てん茶，玉露，発酵茶など多様な茶種の生産
- (5) 第三者認証が進み，安全・安心な茶を国内外に出荷
- (6) 有機栽培茶，輸出向け茶への取組が拡大

## 4 目標

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
荒茶工場の第三者認証等取得割合(%)	81	87	100
有機JAS認証茶園面積(ha)	103	169	206
荒茶工場の法人化率(%)	62	67	79

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

- (1) 現状
- ① 荒茶価格の低迷により、既存施設や機械の更新が困難
  - ② 被覆作業等における労働力確保が困難
  - ③ 第三者認証取得工場が増加
  - ④ てん茶や輸出に対応した茶づくりなど、多様なニーズに対応した茶生産が拡大
- (2) 課題
- ① 新たな販路開拓
  - ② 栽培や製茶にかかるコスト削減
  - ③ ニーズに対応した多様な茶の生産及び工場整備が急務
  - ④ 既存施設や機械の更新
  - ⑤ 労働力確保に向けた仕組みづくり
  - ⑥ かごしま茶の文化を継承・維持する取組が必要

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

- (1) 茶業経営の合理化と担い手農家の育成
- ① 茶工場の合理的再編，法人化を推進
- (2) 低コストで良質かつ多様な茶づくりの推進
- ① スマート農業など技術革新による低コスト良質茶生産を推進
  - ② 産地特性を活かした優良品種への改植や茶工場の処理能力に応じた品種組み合わせを推進
  - ③ ニーズに合った栽培及び加工技術の確立
  - ④ 抹茶の需要増大に対応したてん茶の生産拡大と有機栽培技術導入を推進
- (3) 安全・安心で信頼されるかごしま茶づくりの推進
- ① 第三者認証の取得推進による消費者の信頼確保
  - ② 環境と調和した茶づくりを推進
  - ③ 収穫10日前旗の活用等，農薬飛散防止対策の徹底
  - ④ 「茶れきくん」等を活用した迅速で正確な生産履歴開示
- (4) 販路拡大とブランドの確立
- ① 消費地における販路拡大イベントの充実
  - ② 海外バイヤーや輸出を行う企業との連携の充実・強化
  - ③ 情報発信や観光等と組み合わせたイベントの実施によるブランド力の強化
- (5) かごしま茶の文化振興と消費拡大
- ① 健康をキーワードとしたお茶の機能成分による効能や食べるお茶など食材としてのPR
  - ② お茶にかかる体験機会の提供など茶文化への理解促進

# 北薩地域計画（概要）

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

水稻を中心とした複合経営が展開されており、耕地面積に占める茶の栽培面積の割合は、2.2%と大きくはないものの、後継者が確保された経営体も多く、農地集積による規模拡大等が図られつつあるなど、地域の重要な品目である。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 担い手農家の育成と適正な経営規模及び生産体制の推進
- (2) 低コストで良質な茶の生産推進
- (3) 流通対策の推進及び銘柄確立
- (4) かごしま茶の文化の振興

## 3 地域茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル）

- (1) 形状系から深蒸し系まで、多様なニーズに対応した高品質な茶づくりが可能
- (2) 煎茶をはじめ、玉緑茶・紅茶など、多様な茶種生産が可能
- (3) 有機栽培への取組が長く、生産技術等が蓄積
- (4) 防霜施設の整備、乗用型管理機の導入等機械化の進展など、生産基盤が整備
- (5) ドリンク原料茶及び有機栽培茶の契約販売等、市況に比較的左右されない相対取引の進展
- (6) 「かごしま茶」発祥の地とされる感應禅寺（出水市野田町）等、茶にまつわる資源が存在

## 4 目標

項目	2017年度 （現況）	2023年度 （中間年）	2028年度 （目標）
荒茶工場の第三者認証等取得割合（%）	80	86	95
有機JAS認証茶園面積（ha）	40	42	45
荒茶工場の法人化率（%）	38	46	46

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

### (1) 現状

- ① 茶園集積が進展する一方、荒茶工場の処理能力や労力不足等により、規模拡大が困難
- ② 品種が「やぶきた」に偏り、作業が集中する時期の適期管理が困難
- ③ 茶市場での荒茶取引が大部分であるが、一部小売茶を生産

### (2) 課題

- ① 茶工場の再編を含めた労働力確保の検討
- ② 優良品種への新植・改植による作期分散、品質向上
- ③ 消費者ニーズに対応した新たな商品開発の検討や販路拡大
- ④ 「かごしま茶」発祥の地とされる感應禪寺等、茶にまつわる資源の掘り起こしや活用

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

### (1) 担い手農家の育成と適正な経営規模及び生産体制の推進

- ① 若手茶業後継者の活動を支援し、各種研修会を通じ、次世代を担う経営者として資質を向上
- ② 作業受委託を進めるとともに、茶工場の再編を含めた労働力の確保など、地域の茶産地のあり方を検討

### (2) 低コストで良質な茶の生産推進

- ① 優良品種への改植等を推進し、品種の組み合わせによる茶工場の稼働率向上や労力分散を図るとともに、生産・加工技術の高位平準化の取組を強化
- ② 有機栽培茶の生産技術の検証を行いつつ、安定生産技術を確立

### (3) 流通対策の推進及び銘柄確立

- ① 他産業との連携など新たな販路開拓や輸出も視野に入れた小売茶の生産拡大
- ② 新たな茶種の導入やマーケティング活動による多様な商品開発の検討等による販路拡大への取組を強化

### (4) かごしま茶の文化の振興に関する活動

- かごしま茶の歴史、文化の継承に向けた感應禪寺における「献茶祭」を継続実施

# 始良・伊佐地域計画 (概要)

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

中山間地域が多く、比較的冷涼な気候を生かし、有機農業や観光果樹など地域特有の農業経営も盛んである。

茶は、多様な茶種の生産が行われ、県全体の荒茶生産量の約1割を占める県内第3位の茶産地であり、地域農業における主要品目の一つである。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 経営規模拡大の推進等による担い手農家の育成
- (2) 高品質茶づくりの推進
- (3) クリーンな茶づくりの推進
- (4) 海外輸出等を視野に入れた有機栽培茶など多様な茶づくりの推進
- (5) 「霧島茶」等地域銘柄茶の確立と多様な流通・販売ルートの拡大推進
- (6) お茶のふるさとづくり

## 3 地域茶業の魅力や潜在力 (ポテンシャル)

- (1) 全国茶品評会で産地賞を連続受賞するなど上級茶産地
- (2) クリーンな茶づくりの先進産地
- (3) かぶせ茶、てん茶など多様な茶種を有する産地
- (4) 県内有数の有機栽培茶産地
- (5) 豊富な観光資源を有する交通の要所

## 4 目標

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
荒茶工場の第三者認証等取得割合(%)	55	75	100
有機JAS認証茶園面積(ha)	139	157	179
荒茶工場の法人化率(%)	30	33	38

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

- (1) 現状
  - ① 大規模農家を中心に、てん茶など新たな需要に対応した施設等の導入が進展
  - ② 有機JAS認証の取得が拡大
  - ③ 有機栽培によるてん茶の生産が拡大傾向
- (2) 課題
  - ① 中山間地～山間地であるため、出荷時期が遅く、早場産地に比べ价格的に不利
  - ② やぶきた中心の品種構成から、作期分散、品質向上を図るため、さらなる改植の推進が必要
  - ③ 担い手農家への茶園集積等による経営規模の拡大が進展する一方、労働力不足が課題
  - ④ 第三者認証の取得に対する農家の経済的・労力的負担が増加

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

- (1) 地域の立地条件を生かした生産振興
  - ① てん茶や有機栽培茶など、個性ある茶生産拡大を図るとともに、輸出に向けた生産者の取組を支援
  - ② 労働力不足に対応するため、後継者や担い手を核とした協業組織の茶工場運営などの仕組みづくりを検討
  - ③ 経営の法人化による働きやすい環境整備や高性能機械やI・O・T・A・I技術の導入による省力化を推進
- (2) 安全・安心な茶づくりの実践
  - ① 経営改善のツールとして有効なGAP等の全工場での取得に向けた推進
- (3) 「霧島茶」等地域銘柄茶の確立
  - ① 上級茶産地として生産技術の高位平準化及び技術継承のため、全国茶品評会等への積極的な出品による銘柄確立
  - ② 鹿児島空港や霧島等の観光地を有すことから、観光客等をターゲットに「霧島茶」等の認知度を高める新たな仕掛けを検討
- (4) お茶のふるさとづくり
  - ① 霧島市牧園町の大茶樹、湧水町の般若寺の茶樹等を観光資源として活用することによる茶産地のPR
  - ② 学校や地域企業等と連携し、お茶を使った新商品開発やお茶に親しむ活動を促進し、お茶のファンを拡大

# 大隅地域計画 (概要)

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

温暖で日照時間が長い気象条件等を活かし、県内有数の農業地帯として、多様な経営が営まれている。茶は、深蒸しの産地であるが、近年、てん茶等の生産や輸出に取り組む経営体が増えつつあり、地域を支える品目である。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 茶産地の中核となる大規模経営体の育成
- (2) 大規模経営体を核とする足腰の強い茶産地づくり
- (3) 地域の強みを活かした良質茶生産技術確立と消費者に信頼されるクリーンな茶づくりの推進
- (4) 覆い下栽培茶や有機栽培茶など付加価値の高い茶づくりと国内外への販路拡大

## 3 地域茶業の魅力や潜在力 (ポテンシャル)

- (1) 豊富な品種構成で早生から晩生までの幅広い茶期
- (2) 立地条件と畑かん施設を活かした効率的な生産
- (3) 経営改善意欲の高い若い担い手が多数存在
- (4) 志布志港の海外航路を活用した輸出の取組が可能

## 4 目標

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
荒茶工場の第三者認証等取得割合(%)	47	63	80
有機JAS認証茶園面積(ha)	54	180	238
荒茶工場の法人化率(%)	24	29	33

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

### (1) 現状

- ① 茶工場数は減少傾向にあるが、1戸当たりの栽培面積は増加。1工場あたりの面積、生産量は横ばい
- ② 有機栽培に取り組む生産者が増加
- ③ 畑かん地区における水利用率が高い
- ④ 仕上茶流通が少なく、深蒸し産地としての知名度は低迷
- ⑤ 個人販売や相対取引はごくわずか

### (2) 課題

- ① 後継者不在の個人工場が多く、生産能力の限界に達しつつあり、閉鎖を見据えた再編整備が急務
- ② 受け皿となる大規模経営体の育成
- ③ 輸出サプライチェーン、相対取引による契約販売等販路開拓が必要

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

### (1) 生産、経営

- ① 核となる経営体の受入可能面積を把握し、経営安定対策を実施
- ② 外国人技能実習生の受入など、人材確保対策を実施
- ③ ロボット作業機械の導入による省力化を支援
- ④ 輸出に対応可能な荒茶生産の取組を支援
- ⑤ 第三者認証の取得に向けた支援を強化
- ⑥ 畑かん地区への新植推進による水利用技術確立
- ⑦ 複合経営による農閑期の所得確保と年間雇用対策を支援
- ⑧ 覆い下栽培茶や有機栽培茶など、市場性のある茶種の品質向上など技術確立に向けた研究会組織等への活動支援

### (2) 販売、流通

- ① 販売形態に対応した仕上加工技術や荒茶の生産技術向上を支援
- ② 荒茶の集出荷体制整備を推進

### (3) 文化振興

消費者へのお茶の入れ方教室を継続実施

# 熊毛地域計画 (概要)

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

基幹作物であるさとうきび、原料用かんしょに加え、温暖な気候を活かした園芸作物や花き等の産地化が進んでいる。

茶も早出し産地として、専作経営体も育成されており、有機栽培茶や紅茶など、特色のある取組が行われている。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

「走り新茶」の産地として、品種構成の見直しと防霜施設の整備推進による確実な早期出荷

## 3 地域茶業の魅力や潜在力（ポテンシャル）

- (1) 日本一早い走り新茶の産地
- (2) 第三者認証，有機JAS認証の取得拡大
- (3) 世界遺産の島としてのブランド力

## 4 目標

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
荒茶工場の第三者認証等取得割合(%)	94	100	100
有機JAS認証茶園面積(ha)	19	25	30
荒茶工場の法人化率(%)	18	19	20

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

### (1) 現状

- ① 走り新茶の産地であるが、近年、その優位性が低下
- ② 所得が市場価格で左右
- ③ 熊毛地域における茶の生産・文化振興にかかる認識不足
- ④ 個人経営の小規模農家が多数
- ⑤ 被覆作業やほ場管理作業への労働力不足
- ⑥ 安全・安心な茶づくりに向け、生産履歴記帳や茶工場の環境改善などの取組を実施

### (2) 課題

- ① 荒茶価格の低迷に対応したさらなるコスト削減
- ② 潮風害及び病害虫対策

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

- (1) かんがい施設の活用や防霜ファンの整備を推進するとともに、当地域に適した品種構成を検討
- (2) 整枝や病害虫防除等の栽培研修会、製造研修会等の実施による生産及び加工技術の高位平準化
- (3) 補助事業を活用した茶工場の再編をすすめ、経営の合理化を推進
- (4) 農地の集積を図るとともに、大型機械が利用できるほ場の整備を推進
- (5) 仕上茶販売への取組や、海外での販売へ向けた条件整備
- (6) 援農隊の活用や異業種従事者や外国人による労働力を積極的に受け入れる素地の醸成
- (7) 環境と調和した農業の取組を推進
- (8) 潮風害リスク軽減を目指した茶園管理技術を確立
- (9) 出郷者への種子島産・屋久島産茶の提供を通じて、茶の生産・文化振興に対する理解醸成

# 大島地域計画 (概要)

## 1 地域農業の概況と茶業の位置付け

基幹作物は、さとうきび、肉用牛、ばれいしょで、農業生産額の約9割を占めている。茶は、その基幹作物と組み合わせられ、複合経営が行われている。

## 2 茶業振興にかかる基本方針

- (1) 茶の生産技術向上
- (2) 茶業情報収集及び調査研究
- (3) 販路及び銘柄の確立

## 3 地域茶業の魅力や潜在力 (ポテンシャル)

- (1) 降霜のない立地条件
- (2) メチル化カテキン、アントシアニン、ケルセチン等の機能性を有した品種を栽培
- (3) 炒り蒸し機、CTC機などの導入により、緑茶を始め、紅茶、半発酵茶など、他産地にはない多様な茶種の生産が可能

## 4 目標

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
荒茶工場の第三者認証等取得割合(%)	0	100	100
有機JAS認証茶園面積(ha)	0	7	10
荒茶工場の法人化率(%)	100	100	100

## 5 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる現状と課題

### (1) 現状

- ① 有機栽培への転換により、収量・品質が低下
- ② 有機 J A S 認証取得に向けた移行中であり、除草作業に伴うハブ咬傷が懸念
- ③ 整備が進みつつある畑地かんがい施設の通水
- ④ 労力と荒茶工場の処理能力が不足

### (2) 課題

- ① 茶栽培技術の向上
- ② 恒常的な労力不足への対策
- ③ 荒茶加工施設の老朽化及び潮風による管理作業機械の早期劣化等
- ④ 有機 J A S 認証、第三者認証取得に向けた取組が必要
- ⑤ 島外への販路開拓等、茶産地としての P R が必要

## 6 地域の茶業振興及びかごしま茶の文化振興にかかる対応方針

- (1) 徳之島の気象に対応した茶栽培管理の徹底  
栽培マニュアルによる基本技術の励行と、地域に合った更新技術を確立
- (2) 幼木園の早期成園化に向けた支援  
水利用及び雑草対策の機械化等を支援
- (3) 有機 J A S 認証取得  
工場及び一部ほ場の認証及び対象ほ場の拡充
- (4) 第三者認証取得等  
クリーンな茶づくりや J - G A P 等認証取得を推進
- (5) 徳之島の特色を活かした販売体制の整備
  - ① 機能性成分の含有率の高い茶の生産
  - ② 仕上技術向上による半発酵茶等の生産及び取引拡大
  - ③ 実需者との連携による新商品等の開発、販売
- (6) 島内外における労力確保  
他品目・産業との雇用労力交流等年間を通じた雇用体系を検討

# 「かごしま茶」未来創造プランの概要

## 趣旨

○ 生産者や関係機関・団体が一体となり、本県茶業の強みや潜在力（ポテンシヤル）を生かした取組を進め、「儲かる茶業経営」を実現するための基本的な方向性を示す指針として策定

## 現状・課題

### 1 かごしま茶の生産構造

- ◇ 茶産出額は、県の耕種部門で第1位
- ◇ 面積・生産量ともに全国第2位
- ◇ 経営規模の拡大、法人化の進展
- ◇ 荒茶工場の再編・集約の加速化

↑ 中長期的戦略策定の推進、戦略に基づく効率率的生産体制の整備

- ◇ 全国に先駆けたIoTやAI技術の導入
- ◇ 法人への就職による新規就農者の増加
- ◇ 生産者の高齢化等による労働力不足

↑ スマート農業の実用化、雇用条件の整備等による担い手確保対策

- ◇ 一番茶から秋冬番茶までの長期間生産
- ◇ ドリンク原料茶の生産拡大
- ◇ 多様な品種構成
- ◇ 需要に対応した多様な茶づくりが拡大

↑ ニーズに対応した茶づくり、高品質な茶づくりによる付加価値向上

- ◇ 全国トップクラスの有機栽培茶面積
- ◇ 第三者認証取得工場が増加

↑ さらになる安全・安心ニーズへの対応

- ◇ 全国茶品評会で15年連続産地賞受賞
- ◇ 複数部門での上位入賞によるブランド力向上

### 2 かごしま茶の流通・消費

- ◇ 多様な流通形態が進展
- ◇ 全国的なリーフ茶の消費減、緑茶飲料の消費増等による仕上茶率の低下
- ◇ 「かごしま茶」の認知度が低い

↑ さらになるPR活動強化と新たな視点での消費喚起

- ◇ 欧米を中心に、輸出が拡大
- ◇ 輸出促進ビジョン、有機茶基本構想に基づく戦略的取組の強化

## 本県茶業のポテンシヤル

- 栽培面積、荒茶生産量ともに全国第2位
- 茶園平坦率、乗用型摘採機利用率日本一
- 経営の大規模化・法人化が進展
- 全国に先駆けたIoTやAI技術の導入
- ハラエティに富む品種構成
- 需要に対応した多様な茶づくりが拡大
- 全国トップクラスの有機栽培茶面積
- 第三者認証取得工場が増加
- 全国茶品評会「普通煎茶10kgの部」で15年連続産地賞受賞
- 欧米を中心に、輸出が拡大

## 「儲かる茶業経営」実現に向けた基本方針

### 1 生産者の経営安定

- ◇ 地域加工拠点づくりなど効率的生産体制の整備
- ◇ 高収益茶種への転換や複合経営による所得確保等、足腰の強い経営体の育成
- ◇ スマート農業の実用化による省力化
- ◇ 法人化による雇用条件や労働環境の整備等担い手確保対策
- ◇ 優良品種への計画的な改植
- ◇ 自然災害対策や収入保険制度加入推進

### 2 加工及び流通の高度化

- ◇ 6次産業化の取組等経営の多角化推進
- ◇ 流通の多様化に対応した販売チャネルの拡大
- ◇ 生産者、茶商による仕上茶加工の推進

### 3 品質・付加価値の向上促進

- ◇ 栽培・加工技術の研究・普及
- ◇ 多種多様な茶づくり（ドリンク原料茶、抹茶等）の推進
- ◇ 第三者認証（各種GAP、有機JAS）の取得推進やクリーンな茶づくりのさらなる強化
- ◇ 全国茶品評会における複数部門での上位入賞に向けた取組等による品質向上

### 4 消費の拡大

- ◇ 「かごしま茶販売協力店」の継続実施、「かごしま茶販売協力店」との連携強化
- ◇ カフェインなどの機能性を前面に出したPRや産官学連携による研究活動の強化
- ◇ かごしま茶の魅力や特長を前面に出したPR活動や観光客をターゲットとしたPR活動の充実・強化
- ◇ 若年層への新たな視点でのアプローチ及び教育現場との連携による消費喚起
- ◇ 全国茶品評会における複数部門での上位入賞等、かごしま茶のブランド力向上

### 5 輸出の促進

- ◇ 輸出促進ビジョンに基づく輸出相手国に応じた戦略的取組の強化
- ◇ 有機茶基本構想に基づく有機栽培茶、有機抹茶の生産拡大に向けた取組強化
- ◇ 販路開拓に向けた取組強化、需要に対応した茶づくりや流通システムの機能強化
- ◇ 国際規格の第三者認証（各種GAP、ISOなど）、有機JAS認証の取得促進

### 6 かごしま茶の文化振興

- ◇ 手摘み体験など児童生徒が茶と触れ合う機会の拡大
- ◇ 茶の歴史や文化の掘り起こしと活用
- ◇ インバウンド等への茶の歴史や文化等の情報発信によるファンづくり

## 推進体制等

県、市町、農協  
地区・市町技連会

県茶業指導研究会  
・茶業振興に関する具体的方針の検討等

茶業会議所  
茶生産協会  
茶商協、経済連

## 目指す姿（2028年度）

生産者や関係機関・団体が一体となり、「本県茶業の強みや潜在力」を生かした取組が進み、「儲かる茶業経営」が実現

- ◆ 夢を持って茶業経営に参画できる環境づくりが進み、多様な担い手が確保
- ◆ IoTやAI技術等の革新的技術が実用化され、省力化や効率化が進展
- ◆ 「かごしま茶」の認知度が向上し、国内外でブランドが確立

## 【目標】

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
本県荒茶の全国シェア	32%	35%	40%
1戸当たりの栽培面積	4.4ha	5.0ha	5.5ha
荒茶工場の法人化率	38%	45%	50%
有機JAS認証茶園面積	415ha	660ha	900ha
荒茶工場の第三者認証取得割合	64%	80%	95%
全国茶品評会における産地賞受賞	1部門	2部門	2部門
全国茶品評会における入賞率	2部門	5部門	8部門
仕上茶総柄数 (「かごしま茶販売協力店」の総柄数)	518総柄	560総柄	600総柄
「かごしま茶販売協力店」の登録店舗数	340店舗	370店舗	400店舗
茶の輸出額 ※	2.7億円	10億円	20億円
有機抹茶の輸出額 ※	—	8億円	16億円
煎茶の輸出額 ※	—	2億円	4億円
お茶とのふれあい教室 (小学校高学年) 受講率	26%	31%	35%

※ 輸出額にかかる目標は、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」及び「かごしま有機茶輸出促進基本構想」と合わせ、目標を2025年度、中間年を2021年度とする。